



ゲノムから人間を理解する：人間科学部発・遺伝医学リテラシー教育

人間科学部 教授 磯村 実

ヒトゲノム解析技術の進展は、新たな治療法を生む希望と共に、プライバシー侵害、遺伝子差別、生命倫理を巡るジレンマなど、深刻なELSI（倫理的・法的・社会的課題）をもたらします。これらの問題は、個人の尊厳や社会の公平性と不可分であり、SDGsが掲げる目標3「すべての人に健康と福祉を」、目標10「人や国の不平等をなくそう」、目標16「平和と公正をすべての人に」の達成にも深く関わっています。例えば、遺伝情報に基づく差別は不平等を助長し（目標10）、公平なルール作りは公正な社会（目標16）に不可欠です。また、技術の恩恵を全ての人々が享受できるか（目標3）も問われます。遺伝医学の講義では、分子生物学と遺伝学の基礎知識を土台として、実際に遺伝に関わる特定の状況や課題を抱える人々・家族の具体的な事例を取り上げ、深く考察していきます。科学技術と人間社会の健全な関係性を構想し、SDGs達成にも貢献できる批判的思考力と倫理的判断力を育成します。これにより人間科学部で学ぶところ・からだ・つながり（社会）の深い理解につなげます。

SNPによる遺伝子の機能変化と疾患

